

馬場小学校に関する地域懇談会 ニュース

令和3年12月24日
仙台市教育局学校規模適正化推進室

地域懇談会を開催しました

地域代表者の方々や保護者の皆様と教育委員会で、児童数が減少している馬場小学校の今後について話し合う地域懇談会を11月28日（日）に開催しましたので、学区内の皆様にお知らせいたします。地域懇談会に先立ち開催した準備会では、設置目的、委員構成等についての規約が定められ、町内会役員等から15名、全保護者世帯から14名の委員の皆様が選任されました。

地域懇談会では、はじめに教育委員会から馬場小学校の現状や学校の統合による教育環境の改善例、保護者や地域の皆様との意見交換会でいただいた意見等について説明を行いました。その後の委員の皆様による協議では、これまでの意見交換会で「馬場小の子どもたちには多くの友達と学び合う環境が必要」との意見が多数だったことを踏まえ、統合の考え方を中心に話し合いが行われました。

教育委員会からの説明

馬場小学校の現状と学校の役割

全国的な少子化の流れの中で、馬場小学校も小規模化が進んでいます。児童数の推移については下の表のとおりとなっており、保護者からは教育環境を心配する声が寄せられています。また、教育課程の基準となる学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」を育むために、下の図の3つの力をバランスよく育むことが大切だとされています。このような力を、学校では、授業等を通した「主体的・対話的で深い学び」などにより身に付けることにしています。そのためには、子どもたちがクラスメートと共に考え、意見を交換し合い、新しい発見をしたり、豊かな発想をしたりする教育環境やプロセスが必要となります。学校の小規模化が進むと、こうした集団を前提とした学習においては、学校独自の努力だけでは十分な効果が得られにくい場面もあり、学校には、一定の児童数で学び合える環境が望ましいと考えられます。

馬場小学校の全校児童数の推移

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
児童数 (人)	22	20	19	18	18	15	15	14	13

学校の役割

学校の役割 ⇒ 社会の中で生きる力を身につける

実際の社会や
生活で生きて
働く
知識・技能

未知の状況に
も対応できる
思考力・
判断力・
表現力など

学んだことを人
生や社会に生か
そうとする
学びに向かう力
・人間性など

これまでの意見交換会でいただいたご意見

馬場小学校の現状を踏まえ、教育委員会では保護者の皆様と、馬場小学校の教育環境のあり方について意見交換を重ね、令和2年11月には5つの町内会ごとに地域の皆様からご意見をうかがってまいりました。これまでの意見交換会でいただいた主なご意見は以下のとおりでした。

【保護者の皆様のご意見】

- 統合を機に、新しい校舎を建設し児童館も併設してほしい。
- 幼稚園・小学校・中学校の連携に力を入れた学校にできないだろうか。
- スクールバスを運行し、遠距離通学の負担解消と通学時の安全確保をお願いしたい。
- 放課後子ども教室を実施し、子どもたちの学習意欲を高めたい。

【地域の皆様のご意見】

- 馬場小は一人一人を大切にしており、子どもたちも学年を問わず仲が良い学校だが、子どもたちのことを考えたら統合もやむを得ない。これからは多くの友達と学べる環境が必要ではないか。
- 統合したとしても、馬場小を中心に形成された地域コミュニティを維持することは大切だ。

統合による教育環境改善の様子について

令和2年4月に統合した上愛子小、作並小、大倉小の例を参考に、統合による教育環境の改善の様子の一部を紹介いたしました。

【スクールバスの運行】

- 作並、大倉方面から上愛子小へのスクールバスを運行し、通学に関する負担を軽減しています。
- スクールバスの運行に伴い、安全にバスの乗降ができるようにバスレーンを整備しました。



【学習支援と友達づくりの支援】

- 「友達仲良し月」を設定し、友達づくりを中心とした学級活動や道徳・異学年交流などに取り組みました。
- 子どもや保護者が気軽に相談できるようにスクールカウンセラーの配置日を増やしました。
- 統合前の学区全ての地域を自分たちの学区と捉えられるような地域愛を育む学習を推進しています。



意見交換の主な内容

子どもたちの現状・統合について

懇談会委員：各町内会の意見交換会ではどのような意見があったのか。

教育委員会：令和2年11月の意見交換会では、どの町内会でも「子どもの教育環境の改善が第一、統合はやむを得ないだろう」といった意見が多くを占めていました。

懇談会委員：子どもが少なくなった馬場小の現状をそのままにしておくのは不自然だと思う。子どもたちの教育環境を良くするためにもなるべく早く統合した方が良いのではないか。

懇談会委員：統合については3年ほど前から保護者の間で協議を重ねてきた。現在は3人しかいない学年もあり、1年生に関しては男子1人、女子1人の2人しかいない状況。統合して環境改善をという話になったが、統合の時期についてなかなか話がまとまらなかった。子どもたちにとって馬場小は良い学校であり、今すぐの統合というよりは、秋保小校舎の移転新築が見込まれる令和9年度に統合できればと考えている。

懇談会委員：今の子どもたちの中に「馬場小に行きたくない」という子はほぼいないし、子どもたちからは「学校をなくしてほしくない」とも言われる。大人の意見だけではなく、子どもの気持ちも大切にしたい。また、新しい校舎と一緒に入ることで新しい仲間として共にスタートしようという気持ちになれると思う。

教育委員会：統合するまでの間も、馬場小・秋保小・湯元小の3校で年7回ほど実施している交流学習を継続し、なるべく多くの子どもたちで学び合える機会を作っていきます。また統合時期に合わせた事前の交流学習などの取り組みも進めてまいります。



日時：令和3年11月28日（日）14：30～16：00
会場：秋保市民センター



3校合同陸上記録会



3校合同で宮城県警察本部を見学

統合後の教育環境（校舎）について

教育委員会：統合先の秋保小校舎は、令和10年を目途に老朽化した部分を建て替える予定があるため、保護者の皆様から、統合を機に秋保中の敷地に移転新築し小中連携教育の充実を求める意見がありました。教育委員会としてもいただいたご意見を踏まえ、よりよい教育環境の実現に向けて秋保小の移転新築を検討しており、新校舎の完成時期は令和9年3月頃を見込んでいます。

懇談会委員：新しい校舎の建築は、なぜ令和9年までかかるのか。

教育委員会：一般的に新しい校舎の建設には、基本設計に1年、図面を作るのに1年、建設工事に2年、合計4年ほどの期間が必要となります。

懇談会委員：秋保中の校舎を活用することもできるのではないか。

教育委員会：秋保中の校舎には小学校6クラスが学べるほどの教室はないため、新しい校舎が必要となります。

懇談会の内容のまとめ

11月28日の地域懇談会では、協議の結果、以下の内容について方向性を確認しました。

- 児童数が減少している馬場小学校の教育環境改善に向け、秋保小学校との統合を進める。
- 統合時期は、秋保小学校の移転新築が見込まれる令和9年度を目途とする。

次回の地域懇談会について

- (1) 日時 令和4年1月23日（日）14：00～15：30
- (2) 会場 秋保市民センター 第1会議室
- (3) 内容 統合準備に向けた体制、今後のスケジュール等について
- (4) 傍聴についてのお願い
 - ・懇談会開始10分前までに受付（会場前）へお越しください。
 - ・委員の協議により、一部非公開となる場合があります。
 - ・会場内での発言、写真及びビデオ撮影、録音等はしないでください。



仙台市教育局 学校規模適正化推進室

住所：仙台市青葉区上杉一丁目5-12 仙台市役所上杉分庁舎11階

TEL：022（214）8432 FAX：022（264）4428 Mail：kyo019031@city.sendai.jp